

平成19年度 第1回 槻の木高等学校 学校協議会（協議内容報告）

1. 日 時 .平成19年 10月6日（土）
2. 場 所 関西大学 高岳館
3. 参加者 芝井さん、田鎖さん、米津さん、壺谷さん、加治佐さん、吹田さん  
校長（松本）、教頭（長井）、事務長（、山本、秋元、吉田彩
4. 内容（要旨）

#### [会長選出]

吹田さんが選出されました。

#### [校長挨拶]

本校は開校以来5年間頑張ってきた。高槻の地域で一定の評価を得てきた。次のステップとして今後の学校の方向性をさぐる時期にきている。今回の協議会で様々な提言・意見をお願いしたい。

#### [今後の取組、今年度のテーマ設定]

山本：本校の次の一手は・・・

##### (1)槻の木高校の将来構想のポイント（資料参照）

###### ①学力向上の取り組み

大学進学に向けた学力向上の取組だけでは府民の支持を得られないのではないかと

→もっと「広義の学力」の向上を考えて、目指す必要がある。

→その具体的な取組を模索している

###### ②帰属意識を高める取組が必要

→「槻の木」ならではの取組を考えて具体化していくことが必要。現在模索中

①、②を含めて広く提案していただくとありがたい。

資料

#### 槻の木高校の将来構想のポイント

##### ① 学力向上の取り組み

府民の支持を得られる学力向上の取り組みは何か？

・大学進学（進路実現）に向けた学力

・広義の学力

（コミュニケーション力）

（プレゼンテーション力）

（ ）

（ ）

② 帰属意識（愛校心・母校愛）を高める取り組み

誇れる学校づくりとは何か？

- ・「槻の木」ならでの取り組み

大きな行事を考えるか？ 日常の取り組みの中で考えるか？

- ・外部に対してインパクトの強い内容は？
- ・あえて「帰属意識」を狙った取り組み、というのがそもそも必要かどうか？

ひとつひとつの教育を方向性をもって行えば、

それが「帰属意識」につながるのでは、という考え方

- ・修学旅行・文化祭・体育大会の方向性の確認作業

(2)教科「探求」～たたき台として～（資料参照）

→別紙の説明

槻の木の学力向上は、単に大学受験学力だけではなく、質的な転化を含めて考えることが大切。

資料

教科「探求」～叩き台として～

1年次

「情報」週2時間（2時間連続授業）

各クラス担当1人＋（情報担当1名）＋チーフ1名＝8名

教科の枠をこえて、7名の「探求」意欲ある教員の掘り起こし

前期・・・「情報A」としての授業を行う一方で、自分の発表テーマを掘り起こす

ビデオ教材、討論、感想文、ディベート

約10回分、様々なビデオを見せる中で、自分の発表テーマを設定する。

後期・・・テーマ設定、発表会（12月）、まとめレポート提出

※ テーマ設定について

1年生の発表は2年次「大発表会の練習」の位置づけ  
教員サイドからテーマモデルを提示

## 2年次

「総合」週2時間（2時間連続授業）

各クラス担当？名

前期・・・4月、テーマ設定

（1年次のテーマ設定を発展したものがのぞましい）

6月、テーマ発表会（3分プレゼン）

10月、秋休み期間中 大発表会

## 3年次

学校設定科目「卒論」週2時間

後期・・・2年次の発表を論文化する

「卒論」として学校に保存

### [各委員からの質問・提言等]

加治佐：・生徒からそういうニーズはあるのか

- ・5年間やってきて、こういう反省をされること自体が素晴らしい。槻の木に対して可能性を感じる。学力を広く捉えて考えていくことは結構なことである。しかし、生徒は本当にそういう力が欠けているのか？また、槻の木の生徒の力で受験学力との両立ができるのか？そこは、慎重にしなければならないのではないか。進路について考えさせるという意味のレベルくらいから初めてもよいのではないか。次の一手は慎重に踏み出さないといけない。
- ・「帰属意識」に関しては、ひとことで言うと生徒を「ていねいに扱う」ことが大切で結構やられている。これだけやっているのだから、これを続けていくことで十分ではないか。教師の負担も考えるべき。

※山本：生徒から特には聞いていないが、保護者アンケートには学力一辺倒にならないでほしいというものはある

芝井：・京都の堀川で同様の取組がなされて成功しているが、その成功のポイントに次の2つがあると思います。一つは、大学院生を活用しているとうことで、高校生のスタッフだけでは厳しいのではないか。もう一つは、そういう目的で使用できる別棟の建物があり、場所的な裏付けがあるということです。槻の木では、どうするのか？

- ・しかし、大変だけどやってみる価値はあると思う。やるとすれば、週2時間で

はなく、単位数をもっと多くできないか？

- ・私立高校では、少し文化的な行事で特色あるものを行っている。槻の木でもクラブ等の課外で特色をもつというのはいかがでしょうか。

※長井（教頭）：大学の先生とメールを通じたゼミができないか。

吹田：自分の子をみていると、非常に魅力的な内容である。今の子は全体にこういう力が落ちてきている。これは、大学に入った後にも役に立つ力である。

米津：・自分の学校の生徒をみて、学習意欲が低下している。高校への入学が容易になっている状況もあり、勉強に対する意欲が低下している。勉強が面白い、楽しいと思わせることが大切。本校でも大学と連携した取組をして一定の成果をあげているが、槻の木でも高大連携の中で、大学生を活用し面白いことができるのではないかと。

- ・保護者が春日丘か、槻の木か迷っていたときに、槻の木を勧めた。現時点では、それが保護者に言えるので、この状況を今後も続けていただけたらと思います。

田鎖：・私立は、様々なコースをつくって、特色を出すことで生き残りを図っている。槻の木は単位制を活かして、2年生からそういうコースを設置するとかできないか。生徒や保護者から支持されるものができればよいと思う。

- ・本当の学力とは何か？創造的学力形成は、多くの人が考えているが・・・。
- 例えば、弁論大会とか・・・。本物と触れさせる仕掛けが大切だと思います。
- ・大学進学の実績は大きくのびているが、この点の原因を振り返ることが大切だと思います。そして、さらにこれをのばしていくことを考えることが次の一手にとって重要です。

壺谷：・誇れる学校づくりということを考えると、芥川高校の和太鼓等クラブとか趣味的なものをつくって成功している学校もある。ただ、槻の木ではそういう方向性は難しいのではないかと思います。先日、芝谷中へいったがすれ違う子が挨拶するので、すがすがしい気分になった。挨拶を中心とする規範意識をもっと浸透させていくのが誇れる学校づくりにつながると思う。

- ・コミュニケーション力を大企業が一番望んでいるとの新聞報道があったが、これに力を入れていくのもひとつの途である。

今年度の今後の予定

第2回 12月1日（土）

第3回 3月15日（土）